

夕日の下でのんびりセックス 義母と息子の快楽の息抜き

小高い山の中腹。

義母は数年前に離婚して離れ離れになった息子の元へ突如戻ってきて再会を果たす。

「リョウタ！！元気に仕事頑張っているのね！！」

俺はその時、スーツ姿だった…………。

…………。

…………。

いつも通りの忙しい日常。

仕事終わり、夜更けに列車を下り最寄駅から自宅へ自転車で帰る途中だった。

角を曲がった住宅街の道路で白い車が
停まっていた。

街灯で分かった。

横にママが立っていた。

短い、太ももに密着したスカート姿。花柄の白いキャミソールにはむっちりとおっぱいの形が浮き出ている。

夏の風が少しだけ電灯をなぞる。

少しだけ色が青い電灯。

閑静な住宅の一角。

一緒にマンションへと向かった。

二階の自室のドアを閉めるとすぐ……。

俺たちは行為に励んだ。

会えなかった時を埋めるようなひととき。

窓から薄明かりが漏れる。
月と星が見える。

かすかに明るく見える互いの肌で、

俺たちは朝までずっとずっとシックス
ナインをしていた。

義母の太ももは・・・・・・・・あの頃よりも
ほんの少し太かった。

「トレーニングに通っているのよ」

都心に住んでいるらしい。

仕事は厳しい仕事のオフィスレディ。

時に激しいビジネスにもなったりする
らしく・・・・・・・・。

その時のために体力、カラダはしっかりと
キープしているとのことだ。

「都会は・・・・・・・・危険といつも隣り
合わせなの・・・・・・・・だけど刺激的よ」

俺はママのお尻の穴を舐めながら、

その危険性をしっかりと聞いた。

だからこそ刺激的・・・

ママは身も心もエッチに変わっていた。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）